

特集

豊橋空襲から80年

いま、私たちが語り継ぐ記憶

TOYOHASHI — MISSION NO. 210

アメリカ軍が爆撃の目標地点を定めた写真。
(豊橋市図書館所蔵)
当時の広小路五丁目にあった百貨店付近に
印がつけられている。

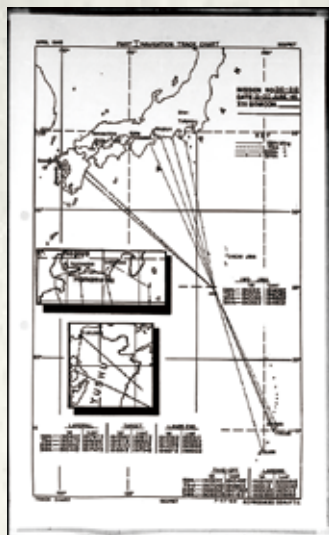
今から80年前の1945年、アメリカなど連合国との太平洋戦争が激化する中で豊橋市にも大規模な空襲がありました。豊橋が経験したことのない最大の災害として、多くの人々が犠牲となった「豊橋空襲」。今回の特集では、空襲の体験談や資料から当時の被害状況と復興のようすを知り、私たちが記憶として語り継ぐとともに、平和について考えます。

問合せ 福祉政策課(☎51・2355)

豊橋の空襲を振り返る

太平洋戦争と空襲

昭和16(1941)年12月、日本軍がハワイの真珠湾を奇襲攻撃したことから、約3年9か月にわたる太平洋戦争がはじまりました。昭和19(1944)年6月に起こったサイパン島の戦いなどで日本軍が敗北すると、アメリカ軍は日本を直接攻撃できるよう、マリアナ諸島のサイパン島・テニアン島・グアム島に飛行場を整備しました。



「戦術作戦任務報告」No.210
(国立国会図書館デジタルコレクションより)

昭和19年11月から本格化したアメリカ軍の本土空襲は、軍事拠点を目標にした空襲から、昭和20(1945)年3月には東京や名古屋など大都市の住宅を焼き尽くす焼夷空襲へと変わり、昭和20年6月からは目標が中小都市へと変更されました。豊橋市は、静岡・福岡市とともに中小都市を目標とした焼夷空襲の2回目の目標となりました。

豊橋空襲

昭和20(1945)年6月19日、テニアン島から出撃した144機のB29爆撃機は、19日の深夜から20日未明にかけて豊橋を襲いました。救援機などを除く136機から投下された1万4889発の焼夷弾により豊橋市街地は炎上し、その炎の中を市民は逃げ回っていました。午前3時15分(アメリカ軍の戦術作戦任務報告では午前3時17分)にB29が去りましたが、約2時間半の空襲により市街地の約70%が焼失したとされ、被害を受けた人は市民の約48%にあたる6万8502人にもおよびました。

6月19日、20日以外にも、昭和20年1月から7月にかけて幾度となく小規模な空襲があり、合計30人以上の死者が出たとされています。

空襲後は、廃材などを組み合わせて焼け跡に建てた仮設の小屋や、防空壕に住む人がいました。また、劣悪な衛生環境が原因で赤痢の感染が広がり、さらに367人が亡くなりました。



▲アメリカ軍が昭和20年7月5日に撮影した、空襲直後の豊橋市街地のようす。(豊橋市図書館所蔵)
空襲の爆撃中心点が設定された広小路五丁目(現三丁目)を中心とした半径約1.2kmの範囲は、建物が焼けてほとんど残っていない。

6月19日～20日の空襲による豊橋の被害

建物の被害

- ・全焼全壊…1万5,886棟
- ・半焼半壊……………109棟

人的被害

- ・死者……………624人
- ・重傷者……………229人
- ・軽傷者……………117人

※上記のほか、記録に残っていない被害もあると考えられる



▲マリアナ諸島の基地に並ぶB29(朝日グラフ 昭和20年10月5日号より)
B29には、ドイツと日本の家屋を効率的に焼失させることを目的にアメリカ軍が開発した焼夷弾が積まれ、豊橋にも投下された。



豊橋市図書館所蔵

▲ 空襲直後の豊橋駅の様子。駅の一部が火の海となり、駅は焼き尽くされたが、信号扱所や従業員詰所などの一部の建物は残った。コンクリートでつくられていた旧吉田駅の外壁のみが焼け残っている。



豊橋市図書館所蔵

▲ 空襲後の札木町の様子。中央には、空襲でも焼失しなかった額ビル（現在のカリオンビルの場所）があり、建物内部は焼けて外側だけ残ったと考えられる。



豊橋市図書館所蔵

▲ 空襲当日の東田町の様子。右に市電が見える。



国立国会図書館デジタルコレクションより

◀ 豊橋空襲のアメリカ側の記録である戦術作戦任務報告。攻撃対象箇所や攻撃開始時間、投下した爆弾の種類・数などが掲載されている。

逃げた先から見た 豊橋は火の海でした

当時、私は小学5年生で、花田町稗

田（現在の駅前大通一丁目）に住んでいました。6月20日の0時頃に空襲が

はじまった時、どの家庭にも1つは防

空壕を持っていたので、私は当時8歳

の弟と防空壕に避難していました。近

くの家が爆撃され、大勢の人の「逃げ

ろ！逃げろ！」という声が聞こえたの

で、弟と2人で防空壕の外に出て、逃

げる人の列に巻き込まれるようにして

母親の実家がある豊川市の牛久保ま

で必死に逃げました。

後に分かったことですが、この空襲

で私の家も爆撃を受け、当時37歳の母

と当時3歳の弟が亡くなりました。母

は、幼い弟のおむつを替えるために家

に残っていたようです。

火の海からの脱出

母親の実家に向かう途中、豊橋駅

を横切ると、木造の駅舎が火の海に

なっているのが見えました。豊川にか

かる豊橋も木造部分があちこち燃え

ていましたが、強引に渡り切りまし

た。橋を渡った先では、軍刀を腰に差



渡邊 弘一さん
(当時10歳)

した陸軍将校に「危ないからこちらへ行け！」と言われ、指示された製材工場へ入りました。おかげで、ザーツという音とともに降り注ぐ焼夷弾を避けることができたのです。

その後、ようやくたどり着いた母の実家から見た豊橋は、地平線まですべて火の海だったことを鮮明に覚えています。

これからの世代に伝えたい

平和が一番。戦争が起きて犠牲になるのは市民・国民です。なぜ戦争になったのか、そういった歴史をもう一度しっかりと考えて、今の平和な状態を長続きさせてほしいです。

火の手が上がってない方へ 逃げることに必死でした

坂部 きよ子さん
(当時4歳)

豊橋空襲があった日、私は4歳で中柴町に住んでいました。父は警防団で不在だったので、母と私を含めた子ども4人で家にいました。昼間から何度も警報が鳴り、いつもと様子が違う感じでした。

夜中に激しい警報が鳴り、最初は防空壕に入りましたが、「このままでは蒸し焼きになる」と母が判断し、外へ出るようになりました。母は防火用水で濡らした夏布団を私たちにかぶせ、火の粉から守ってくれました。

燃えるまちから母と逃げる

母の実家がある牧野町を目指して、最初はリヤカーに必要なものを積んで逃げようとしたが、中柴通りは火の海でとても進めず、諦めました。母は2歳の妹をおんぶし、私と姉たちの手を引いて、身一つで必死に逃げました。

通りかかった広場には、親を待って裸に近い格好で泣き叫んでいる女の子もいましたが、連れていくことはでき



ず、燃え盛る電信柱や家々の間を、ただ夢中で歩きました。途中、兵隊さんがキャラメルをくれて、とても嬉しかったことを覚えています。

戦後、中柴町の家があった場所を見に行きましたが、見事に丸焼けでした。残っていたのは井戸とポンプぐらいで、周りも一帯焼け野原でした。

平和な社会が続くことを願う

戦争だけは絶対にはしてはいけません。今、私たちが当たり前のように送っている平和な毎日のありがたさを、身をもって感じています。この穏やかな日々が続くことを願っています。

罹災証明書

空襲で被災したことを証明する書類。罹災証明書を見せることで避難先でも配給が受けられた。



防空頭巾

空襲時の落下物や飛来物などから頭部を守るために備えていた、綿入りの頭巾。



空襲と市民生活

防空用防毒面

化学兵器での攻撃に備えた防毒マスク。町内会などに備えられ、防空演習に使用したものと思われる。



防空カバー

夜間に空襲の目標にならないよう、カバーなどを電灯に被せることで光が外に漏れないようにしていた。



衣料切符

昭和17(1942)年に衣料品の切符制度が始まり、衣料品を購入する際は、現金のほかに切符が必要だった。



復興する豊橋

新しいまちづくり

焼け野原となった市街地の復旧のため、市は昭和20（1945）年8月4日に市街地の道路や民地の清掃を促す「戦時戦災地整備規程」を作って整備に取り掛かったほか、8月15日に戦争が終わって1か月ほど経った9月20日に、豊橋市復興委員会を組織して本格的な復興の準備を進めました。



駅前大通（豊橋市図書館所蔵）



新川交差点付近（豊橋市図書館所蔵）



公会堂付近から見る大手通方面（豊橋市図書館所蔵）

新しく区画整理が行われ、道路の新たな整備や水道・下水道・ガスのインフラ整備などが進められたことで、今の豊橋の基盤がつくられました。被災地を元の姿に戻すだけでなく、商業・工業・住宅の地域をはっきりと分けて都市を近代的に整備しています。

また、都市の復興には交通・輸送機関が重要な役目を果たすことから、復興事業は豊橋駅周辺の道路から手が付けられました。

豊橋民衆駅の誕生

豊橋駅は、空襲で建物のほとんどを焼失し、仮駅舎で営業していました。その後、総工費の70%を市が負担し、残りを当時の運輸局が負担する民衆駅の建築が承認され、昭和25（1950）年3月に日本で初めての民衆駅が豊橋に誕生しました。

民衆駅とは、駅舎内に商業施設を併設したもので、駅の1階には理髪店や果物店、食堂などが出店し、2階には百貨店がつけられました。



豊橋民衆駅
周辺



豊橋市図書館所蔵

現在の豊橋市へ

道路の整備とともに市街地の復興が進み、魚町・広小路通り・花園町などかつての商店街の復興が進みました。魚町は昔から魚市場があり、戦後の混乱した配給時代には魚を求める市民でにぎわっていました。



広小路通り(豊橋市図書館所蔵)

続いて広小路通り、花園町、松葉町が復興し、駅前を中心に都市が形成されました。さらに住宅も次々と建設され、市街地はめざましく復興していききました。

昭和33(1958)年に復興を宣言した豊橋市は、その後もさまざまな発展を遂げ、現在の豊橋市へとつながっています。

現在の豊橋市(令和4年12月撮影)※

私たちが豊橋空襲を語り継ぐ

豊橋市が空襲によって大きな被害を受けたことや、多くの人が復興に尽力したことを知り、私たちがその記憶と平和への想いを引き継いで、次の世代へと伝えていきましょう。

戦没者の追悼サイレンを鳴らします

- とき 8/15(金)12:00から1分間
- 問合せ 福祉政策課(☎51・2355)
- HP 112071

平和に関する資料を貸し出しています

図書資料の貸し出し

- ところ 中央図書館
- 問合せ 中央図書館(☎31・3131)

DVDの貸し出し

- ところ 市役所じょうほうひろば、各生涯学習センター、各校区市民館ほか
- その他 ホームページからも一部、視聴可
- 問合せ 行政課(☎51・2027)
- HP 76484

※この地図は、東三河広域連合長の承認を得て、同連合発行の都市計画基本図を使用して作成したものである。(承認番号) 7東三都(測)第1-3号
作成にあたり、『とよはしの歴史』(豊橋市 1996年)、『戦前の豊橋 豊橋空襲で消えた街並み』((株)人間社 2016年)、『令和に語り継ぐ豊橋空襲』((株)人間社 2020年)を参考・引用しています。